

夏色 水の音 流し素麺

・・・季節限定 夏の風物詩に 暑気払い・・・

総務課 栄養管理士 木村美穂

日本列島は猛暑～激暑に見舞われ、各地で今年の最高気温を記録した処もあり、兎に角『あつっ!』『あちっ!』状況。レク・スタッフは“夏の風物詩で食欲増進!”を合言葉に、季節を感じる行事で夏気分を味わってもらいたいとの思いから、7月16日に2年ぶりに季節行事である『流しそうめん』を涼しい室内(多目的ホール)で開催しました。

ソーメン流し

日時 令和7年7月16日(水)
13時30分～15時30分
場所 3階ホール



皆様お楽しみに!

起源をひもとくと 宮崎県高千穂町『高千穂の家』が発祥の地。昭和 30 年前後のお盆の供養をする時に 地元の人が集まって、遊び感覚で竹を割って、冷たい湧き水を流し そうめんを食べていた高千穂峡。今から 70 年前 涼を取ると同時に チョットした遊び心で流した事が始まりで、全国に口コミで広まったといわれています。

屋根の軒先に使用される 建築用の雨樋(あまどい)を使用して本格的に素麺を流す台を準備。上流から水を流し ゆがいた素麺を流すという見た目にも 涼風を誘う装置をセットし、麺がスムーズに流れる角度・水の勢いを調整し、夏色 水の音 流し

そうめんセットの完成。職員に付き添われて2・3名ずつ交代しながら 流し台セットの両脇に着席して貰いました。具材としては、素麺やプチトマト・みかん・さくらんぼと色とりどりの物を準備しました。

指定された席に座られ「早く 食べたい!」とお待ちかねの表情。スタッフが「流しま〜す!」「素麺 入りま〜す!」と声をかけると、流れてくる上流のほうを見つめておられました。職員が「流れてきたよ!」「早く 取って!」や「掬いあげて!」と声掛けをしたりうまく掬われた方には「じょうず! 上手!」の褒め言葉をかけたりして、職員と連携しながら素麺を掬いあげておられました。掬うことが出来ない方には、スタッフが 流れてくる素麺に箸を差し出し 目前を通り過ぎる瞬間に 麺を掬い上げて、個人の器に入れると汁に漬け 口に運ばれていました。麺以外にもプチトマト・みかん・さくらんぼの流れる姿が可愛く、場所によって 此处まではゆっくり、此处から流れが早くなるという場所もありました。赤やオレンジ・ピンク

